

ジンバブエ経済（経済情報の週間とりまとめ：3月第4週目）

- 1 ワニ養殖業のパデンガ社、最先端の環境基準を備えた水処理施設を新設
- 2 ジンバブエ国鉄、モザンビーク鉄道港湾公社と貨物輸送の効率改善につながる協定を締結
- 3 販売好調のアクシア社、現地通貨 ZiG の切り下げで利益が昨年同期比 12%減少
- 4 ウォルビス・ベイにあるジンバブエ・ドライポートの能力拡張を計画
- 5 国連がアフリカ大陸自由貿易圏の下でジンバブエの工業輸出が 59%増加と予測
- 6 月間インフレ率は低下、年間インフレ率は高止まり

1 ワニ養殖業のパデンガ社、最先端の環境基準を備えた水処理施設を新設

ワニ養殖業のパデンガ・アグリビジネス社は、カリバ湖の拠点に 120 万米ドルの最先端廃水処理施設を稼働させた。同社のシャープ CEO は「この投資は、世界のワニ養殖業界の新しい基準を設定するものであり、当社の環境責任と持続可能性への取り組みを示している」と述べた。同処理施設は、廃水から汚染物質や不純物を取り除き、処理された水が国内および国際基準を満たすように設計されており、カリバ湖の水生生物を保護し、水が人間の消費用として安全であることを保証する。ジンバブエはワニ皮の上位生産国の一つである。（22 日付ニュースデイ紙 1 面）

2 ジンバブエ国鉄、モザンビーク鉄道港湾公社と貨物輸送の効率改善につながる協定を締結

14 日、ジンバブエ国鉄（NRZ）とモザンビーク鉄道港湾公社（CFM）は、モザンビークのマプトで、国境を越えた鉄道事業の強化を目的とした協定が締結された。26 日から発効するこの戦略的提携は、NRZ 線での CFM 車両の使用を促進し、モザンビークとジンバブエ間の貨物輸送の接続性を向上させることを目指している。この協定は当初、シクアラクアラ（Chicualacuala）とルテンガ（Rutenga）間の 148km の区間と、マチパンダ（Machipanda）からニヤズラ（Nyazura）までの 84km の路線という 2 つの主要路線を対象とする。さらに、両鉄道事業者間のさらなる協議次第で、ルテンガからダブカ（Dabuka）までの延長の可能性も規定されている。鉄道の連携を強化することで、CFM と NRZ は南部アフリカ地域の貨物輸送の効率を改善し、両国間の貿易と経済の統合を促進することを目指している。アナリストによると、鉄道による商品輸送は道路輸送より 45%安く、消費者にとって有利な価格低下につながる可能性がある。（24 日付ヘラルド紙 3 面）

3 販売好調のアクシア社、現地通貨 ZiG の切り下げで利益が昨年同期比 12%減少

小売・流通会社であるアクシア社（Axia Corporation Limited）は、2024 年 12 月 31 日終了の半期会計期間の税引後利益が前年同期比で 12%減少し、529 万米ドルになったと報告した。現地通貨ジンバブエ・ゴールド（ZiG）の切り下げにより 228 万米ドルの財務損失が発生したことがおもな要因。ZiG は 2024 年 9 月に 44%切り下げられた。アクシア社の主な事業部門は、TV セールス&ホーム（TV Sales & Home）、ディストリビューション社（Distribution Group Africa、DGA）、トランサーブ社（Transerv）である。当該

期間、TVセールス&ホーム社は好調な販売実績を上げ、販売数量、売上高ともに前年同期比 6%増加した。トランサーブも、主にソーラー製品の売上増加と新支店の開設により、上半期の売上高が前年同期比 4%増加した。(24 日付デイリーニュース紙ビジネス 1 面)

4 ウォルビス・ベイにあるジンバブエ・ドライポートの能力拡張を計画

19 日、ムルウィラ外務・国際貿易大臣を含むジンバブエ代表団は、ナミビアのウォルビス・ベイにあるジンバブエ・ドライポートを視察し、拡張計画について検討した。ジンバブエ貿易局 (ZimTrade) は公式 X の投稿で、拡張計画には新しい倉庫、インフラ強化、効率改善策が含まれていると述べた。ドライポートは内陸港とも呼ばれ、道路や鉄道で海港に直接接続された複合ターミナルで、海上貨物を内陸向け輸送に積み替えるセンターとして機能する。ウォルビス・ベイにあるジンバブエのドライポートは、ナミビアから 50 年間リースされた約 19,000 平方メートルの土地に建設された。(25 日付ヘラルド紙ビジネス 1 面)

5 国連はアフリカ大陸自由貿易圏の下でジンバブエの工業輸出が 59%増加と予測

国連アフリカ経済委員会 (Economic Commission for Africa, ECA) のアフリカ経済報告書 2025 (Economic Report on Africa 2025)によると、アフリカ大陸自由貿易圏 (AfCFTA) の下で、ジンバブエのアフリカ市場への工業品輸出が 59%増加すると予想されている。

同報告書の推計によると、アフリカ域内貿易 (輸出) は 2045 年に約 45% (2,757 億米ドル) 増加し、農業食品 (agrifood) で 60% (586 億米ドル)、工業で 48% (1,656 億米ドル)、サービスで 34% (49 億米ドル) 増加すると見込まれている。エネルギーと鉱業のアフリカ域内貿易の増加は、推定 28% (466 億米ドル) とかなり大きいものの、他の主要セクターに比べると著しく低いと報告書は付け加えている。

報告書はさらに、AfCFTA の実施後にアフリカ域内貿易の拡大を促進する可能性が最も高いサブセクターを特定しており、これには、木材および紙製品、化学薬品、ゴム、プラスチック、医薬品、車両および輸送機器、金属およびその他の製造品を含む産業が含まれる。また、穀物および農作物、牛乳・乳製品、砂糖、米、肉、その他の加工食品も含まれる。観光および輸送はサービス部門に含まれる。一方で、同報告書は、二酸化炭素排出に伴う環境問題のため、精製油については慎重に分析する必要があると指摘している。同様に、鉱業製品のアフリカ域内貿易の拡大も、付加価値化を促進するために慎重に検討する必要がある。(27 日付ヘラルド紙ビジネス 1 面)

6 月間インフレ率は低下、年間インフレ率は高止まり

ジンバブエ国家統計局 (ZimStat) の発表によると、3 月の米ドル建て月間インフレ率は 0.1%で、2 月の 0.2%から 0.1%ポイント下落した。また、3 月の ZiG 建て月間インフレ率は-0.1%となり、2 月の 0.5%から-0.6%ポイント下落した。

一方、3 月の米ドル建て年間インフレ率は 15%となり、1 月以降高水準にとどまっている。ZiG の価値はジンバブエ中央銀行 (RBZ) によって管理されており、現在の市場動

向を真に反映していないため、企業は商品やサービスの価格設定で引き続き米ドルを好んでいる。(28日付ニュースデイ紙ビジネス1面)